

RYOBI

リョービグループ
社会・環境報告書
2016



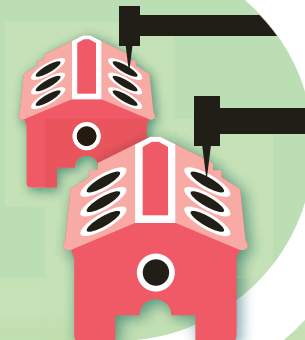
リョービグループと社会の関わり

リョービは、くらしの身近なところで、人々のゆとりと豊かさを支えています。

DIE CASTINGS

世界トップクラスのダイカストメーカー。シリンダーブロックやトランスミッションケースなどの自動車部品をはじめ、さまざまなダイカスト製品を提供しています。

ダイカスト



POWER TOOLS



パワーツール

本格的な住まいづくりからホビーまで、世界中のプロ・アマチュアに愛用されている電動工具。美しい庭づくりのための園芸用機器など、多彩なパワーツールで、「創造するよろこび」をお手伝いしています。

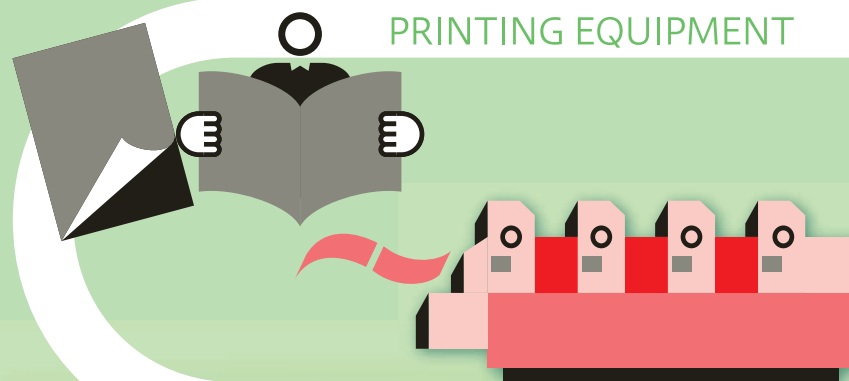
BUILDERS' HARDWARE

ドアを静かに確実に閉めるドアクローザ。ホテルなどの室温を快適に調節する空調制御システム。安全で快適な住まいやオフィスを実現する建築用品を提供しています。

建築用品



PRINTING EQUIPMENT



印刷機器

カタログ、ポスター、雑誌、パッケージなど、美しい印刷物をスピーディーに仕上げる高精度、多機能のオフセット印刷機。世界中のお客様に独創的で高品質な印刷機やサービスを提供しています。

グループ
社員数
8,993
人

14 社、
19 拠点で
ISO14001を
取得

※2016年3月31日現在

CONTENTS

リョービグループと社会の関わり

P02 リョービグループのCSR経営

環境への取り組み

P04 環境マネジメント

P08 環境パフォーマンスデータ

社会への取り組み

P10 社会への取り組み①

地域社会への貢献

P12 社会への取り組み②

働きやすい職場づくり

P13 社会への取り組み③

コンプライアンスとコミュニケーションの推進

報告の範囲

期 間：2015年4月～2016年3月(2015年度)

※一部、2016年4月以降の最新情報を記載

事業所：リョービ株式会社

リョービミラサカ株式会社・リョービミツギ株式会社

株式会社東京軽合金製作所・生野株式会社

リョービ販売株式会社

リョービMHIグラフィックテクノロジー株式会社

旭産業株式会社・リョービ開発株式会社

リョービグループのCSR経営

リョービグループは企業理念

「技術と信頼と挑戦で、健全で活力にみちた企業を築く。」のもとで、
企業の持続的な価値創造とより良い社会の実現をめざし、
社会的責任を果たすことを経営の基本としています。
単に、公正な競争を通じて利潤を追求するだけでなく、
広く社会から有用な存在として、
好感を持たれ信頼される企業になることをめざしています。



リョービグループは、14 社、19 拠点
でISO 14001の認証を取得。環境に
関するマネジメントシステムを構
築し、維持・運用しています。各社、
各拠点ごとに環境への影響をふま
えて環境目的・目標を設定し、省エ
ネルギー、省資源、廃棄物の削減、
温室効果ガスの削減などに取り組
んでいます。



アルミ缶回収運動、事業所周辺の河
川敷や道路の清掃活動など、社員に
よる社会貢献活動を積極的に推進
しています。2004年に設立した
NPO法人リョービ社会貢献基金
では、社会福祉法人やNPO法人、
ボランティアグループなどに、物品
の寄贈、活動資金の助成、ボラン
ティアの派遣などを行っています。



市場を重視し、お客様の真の満足
を考えた商品・サービスを提供す
るため、常に品質向上に取り組ん
でいます。国内外の生産拠点では、
品質管理の国際規格ISO 9001や
ISO/TS 16949の認証を取得して
います。また、カスタマーサービスの
窓口を設置し、お客様対応の強
化・充実をはかっています。

環境保全への 取り組み

〔地球環境への配慮
(持続可能な社会の実現)〕

社会貢献活動

〔地域社会との共存〕

コンプライアンス

〔法令・倫理等の遵守〕

働きやすい 職場づくり

〔社員満足度の向上、
安全衛生の推進〕

積極的な 企業情報の開示

〔株主・投資家などの
皆様との
コミュニケーション〕

お客様の立場に 立った商品・ サービスの提供

〔お客様満足度の向上〕

Corporate
Social
Responsibility

※CSR=企業の社会的責任

企 業 理 念

企業が広く社会から信頼されるた
めには、法令や倫理に反する行動
をしない、常に正しい行動がとれ
る体制を確立することが重要です。
リョービグループでは、リョービ
コンプライアンス委員会を中心と
する推進体制の確立や、リョービ
企業行動憲章による企業倫理の
徹底をはかっています。



多様な人材の活用、能力が発揮し
やすい環境の実現、安全で健康な
活力ある働きやすい職場づくりを
推進しています。



株主や投資家の皆様をはじめとす
る全てのステークホルダーに対し、
適時適切、迅速、公平に企業情報
の開示を積極的に行っています。



独自の環境方針のもと、環境への取り組みを着実に進めています

リョービ環境方針

リョービは、環境マネジメントシステムを構築し、事業活動、製品およびサービスによる環境への影響が大きい項目に関して、技術的および経済的に可能な範囲で環境目標を設定、見直しを行い継続的な改善をはかります。また、これらの活動を通じて経営計画の達成をはかるとともに、社会の発展に貢献します。

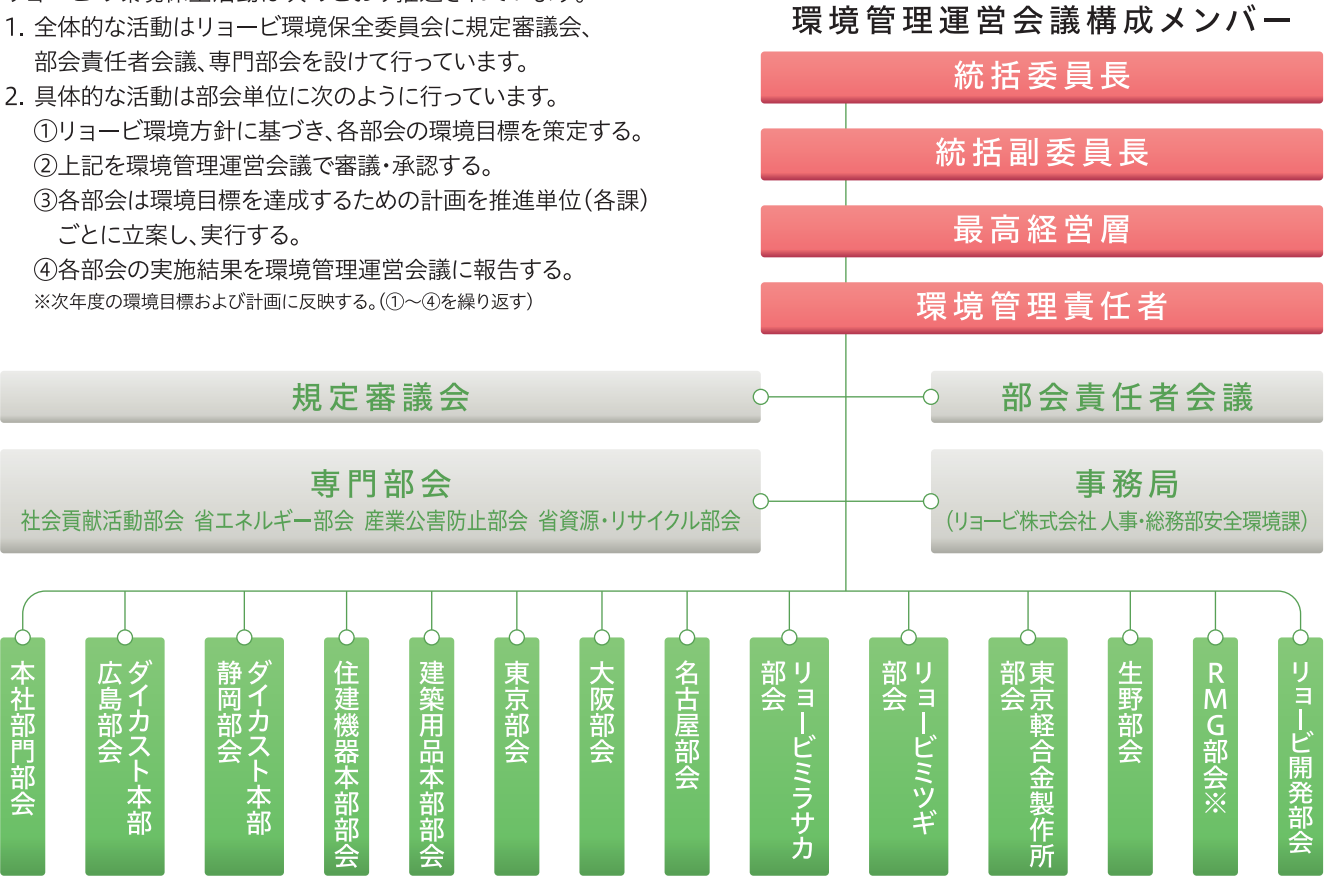
- ① ISO 14001:2015規格要求事項に沿った規定を制定し、実行する。
- ② 環境関連の法律、規制、協定又は関連する組織が同意する環境関連要求事項を順守し、環境汚染を予防する。
- ③ 地球温暖化防止、省エネルギー、廃棄物の減量化及び再資源化に取り組む。
- ④ 緊急時に廃油、灯油、重油、廃液、薬品、化学物質等が環境に著しい影響を及ぼさないよう予防処置に努め、訓練を行う。
- ⑤ 全構成員の環境に対する意識の向上を図るため、教育・啓蒙活動を行う。
- ⑥ 環境保全活動を通じて、地域社会に貢献する。
- ⑦ この環境方針は、全構成員に周知させるとともに、一般の人にも公開する。

※リョービとは、グループ会社を含めて次の事業所をいう。
・リョービ株式会社（本社、東京支社、大阪支店、名古屋営業所、広島工場、広島東工場、静岡工場、府中物流センター、御調第1物流センター、御調第2物流センター）
・リョービミラサカ株式会社・リョービミツギ株式会社・株式会社東京軽合金製作所・生野株式会社
・リョービ販売株式会社（本社、中部営業部、名古屋営業所、関東営業部、東京北営業所、関西営業部、高槻営業所）
・リョービMHIグラフィックテクノロジー株式会社（本社、本社工場、栗柄工場、東日本支社、中日本支社、西日本支社）
・旭産業株式会社・リョービ開発株式会社（庄原カントリークラブ）

リョービ環境保全委員会の運営組織図（ISO 14001推進組織）

リョービの環境保全活動は次のとおり推進されています。

- 1. 全体的な活動はリョービ環境保全委員会に規定審議会、部会責任者会議、専門部会を設けて行っています。
- 2. 具体的な活動は部会単位に次のように行っています。
 - ①リョービ環境方針に基づき、各部会の環境目標を策定する。
 - ②上記を環境管理運営会議で審議・承認する。
 - ③各部会は環境目標を達成するための計画を推進単位（各課）ごとに立案し、実行する。
 - ④各部会の実施結果を環境管理運営会議に報告する。※次年度の環境目標および計画に反映する。（①～④を繰り返す）



※RMG部会とは、リョービMHIグラフィックテクノロジー株式会社（本社、本社工場、栗柄工場）の部会をいう。

2015年度の環境目標

環境目標とは、リョービ環境方針に基づき、中・長期的にめざす姿を具体化し、実現するための年度別目標です。部会の推進単位（課単位）ごとに「環境マネジメントプログラム」に落とし込んで実施されます。リョービグループでは、環境負荷低減目標として以下の内容について目標達成に向け、グループ全体で取り組んでいます。

リョービグループの環境負荷低減目標

CO ₂ 排出量の削減	・2016年3月までにCO ₂ 排出量生産量原単位を2006年度比で、12%削減する。 ・CO ₂ 排出量生産量原単位を対前年度比1%削減する。
廃棄物の削減	・リサイクル率の向上 …2016年3月までにリサイクル率を96.5%以上にする。 ・最終処分率の低減 …2016年3月までに最終処分率を 7.5%以下にする。

2015年度の主な取り組み

環境マネジメントシステム

項 目	目 的	目 標	2015 年度実績
法令及びその他の要求事項の順守	環境関連法令及び環境関連要求事項を順守し、コンプライアンス経営を実現する。	〈 全部会 〉 法規制の順守状況を定期的に確認し、不適合の発生を防止する。	法規制不適合はなし。
教育・啓蒙活動の推進	環境保全に資する人材を育成する。	〈 ISO 14001事務局 〉 内部環境監査員の養成。	・内部環境監査員養成セミナーを開催。 36人参加し、全員資格取得。

環境保全

項 目	目 的	目 標	2015 年度実績
省エネ、省資源、地球温暖化防止	電力の使用量を削減し、省エネを推進する。	〈 東京軽合金製作所部会 〉 電力の使用量を生産量原単位で対前年度比3%削減する。 ※'14年度実績（原単位）1.051 '15年度目標（原単位）1.019	'15年度実績（原単位）は0.903となり、4.5%の削減となった。 ・製品不良の低減 ・製造サイクルタイムの短縮
	主材料、搬送用・梱包用材料の使用量を削減し、天然資源の保護に寄与する。	〈 ダイカスト本部広島部会 〉 材料のリサイクルや効率的活用を推進し、購入量（原単位）を'16年3月までに'15/3期実績に比べ1%削減する。	・電極材購入量（原単位）の削減 目標：65.53 → 実績：61.96 ※原単位=購入量/工数
	温室効果ガスの排出量を削減し、地球温暖化防止に寄与する。	〈 リョービミラサカ部会 〉 CO ₂ 排出量生産量原単位を対前年度比1%削減する。 （原単位=CO ₂ 排出量/生産量）	前年度比 0.9%削減（原単位） ・工場照明のLED化 ・電力デマンド値の引き下げ ・生産性（機械稼働削減、サイクルタイム短縮など）
水質、大気及び土壌汚染の防止	環境負荷の低減と管理の強化によって、水質、大気、土壌を汚染する事故を防止する。	〈 ダイカスト本部広島部会 〉 日常管理、環境パトロールの実施、定期的な水質・ばい煙測定などにより、汚染事故ゼロを達成する。 〈 生野部会 〉 排ガス、排水の管理を徹底するため、設備のメンテナンスを継続して行う。	汚染事故なし 溶解炉、自家発電機（ディーゼル）のばい煙測定を2回/年、排水検査を毎週実施。測定結果は、全て規制値内。 ・排ガス：集塵機の内部補修およびダクトの部分更新を実施。設備の性能を向上させた。 ・排水：朝夕2回の油水分離層の点検を行い浮遊油膜を回収することで汚染の防止に努めた。
廃棄物の削減、リサイクル率向上	リサイクルに配慮し、産業廃棄物の最終処分量を抑制する。	〈 リョービミツギ部会 〉 廃棄物の分別、リサイクルを強化・推進することで、廃棄物の排出量を削減するとともに、リサイクル率を99%以上とする。	総排出量362,505kgに対しリサイクル処理360,125kgとなり、リサイクル率99%を達成。

社会貢献 → P10-11 参照

外部・内部の監査、マテリアルバランスの管理を徹底しています

2015年度 環境監査の状況

外部環境監査結果に関するまとめ >>>>>

ISO 14001認証審査は、ロイドレジスター(LRQA)にお願いしています。
2015年度は、2回(6月と11月)の定期審査が行われました。
6月の定期審査では、ダイカスト本部広島部会、住建機器本部部会、建築用品本部部会を対象に審査が行われ、「MinorNC(軽微な不適合)」が2件、「改善提言」が14件という結果でした。
11月の定期審査では、東京軽合金製作所部会、東京部会、名古屋部会を対象に審査が行われ、「MinorNC(軽微な不適合)」が0件、「改善提言」が7件という結果でした。
いずれも是正、改善を完了し、ISO 14001認証は継続しています。



定期審査(オープニングミーティング)



定期審査(書類審査)



定期審査(現場確認)

内部環境監査結果 >>>>>

2015年度は、8月と2月に内部環境監査を行いました。法令順守や汚染の予防につながる効果的な内部環境監査をめざして、91の推進単位間での相互監査を行っています。
8月の監査では102件、2月は66件の不適合事項の指摘と是正が行われました。

リョービ環境活動のあゆみ

リョービ環境保全委員会は発足より毎年、地域社会へさまざまな貢献活動を実施しています。

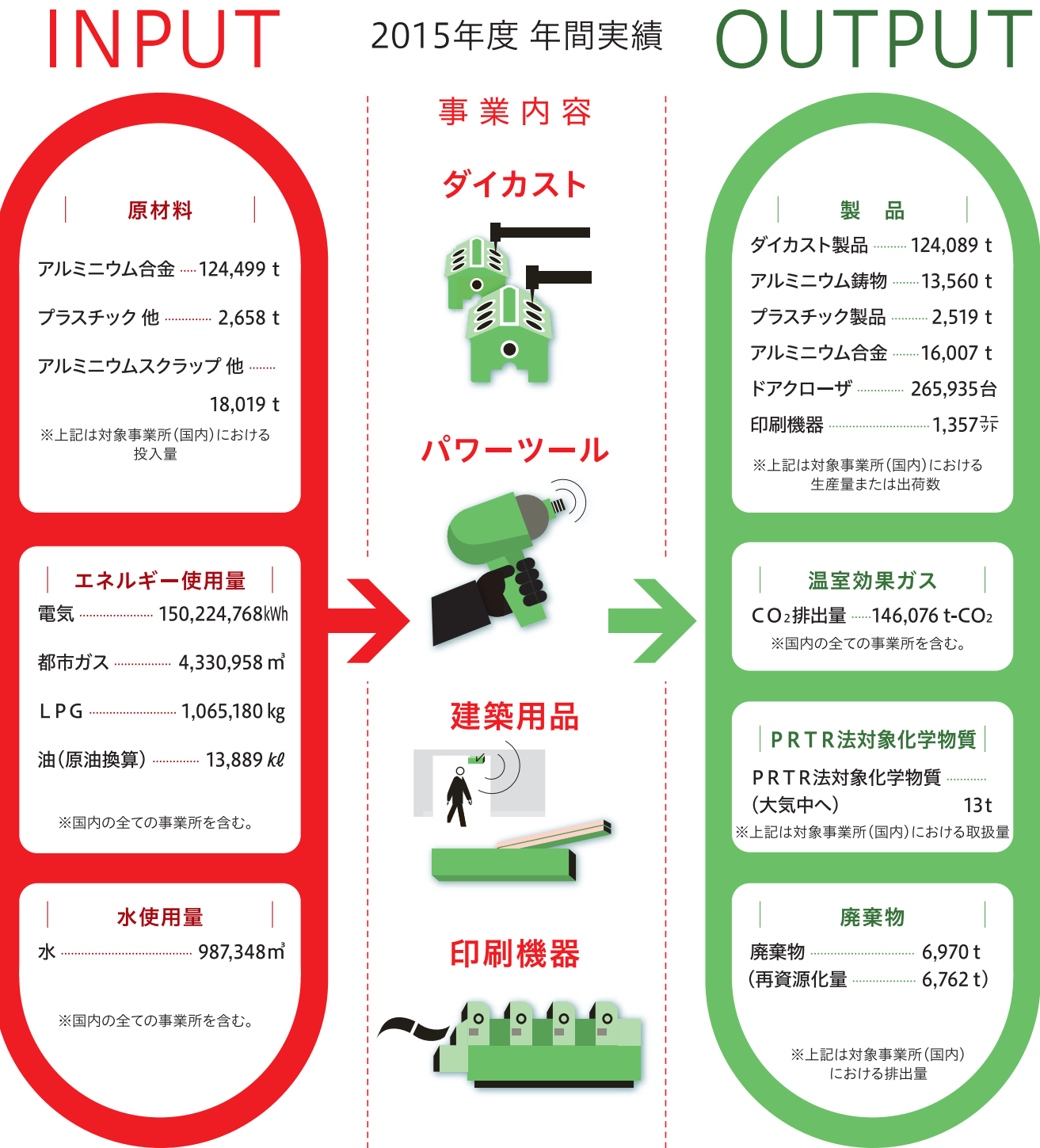
年	月	リョービ環境保全委員会の活動
1990 ▽ 1998 (ピックアップ)	1990 9 11	リョービ環境保全委員会設立 芦田川クリーン作戦開始(府中地区)以後継続
	1991 2	アルミ缶回収運動開始(府中地区)以後継続
	1998 11	グラフィック システム本部(現在のRMG) ISO 14001 認証取得
	2000 5 10 11	本社 ISO 14001 認証取得 NHK主催のボランティアフォーラムにパネリストとして参加(府中地区) 静岡工場、リョービミラサカ ISO 14001 認証取得
	2001 5 11	リョービミツギ、リョービ開発 ISO 14001 認証取得 生野 ISO 14001 認証取得
2000 ▽ 2004	2002 4 5 9 11	旧環境保全委員会から新生リョービ環境保全委員会へ移行 東京、大阪 ISO 14001 認証取得 福山青年会議所からボランティア賞優秀賞受賞(府中地区) 東京軽合金製作所、名古屋 ISO 14001 認証取得
	2003 3 7 9 11	アルミ缶回収1,000万個達成(府中地区) 不用品衣料品回収運動(府中地区) リョービグループ環境報告書2003発行、以降継続 創立60周年記念行事(クリーン作戦、植樹等)
	2004 3 7 8 9 10	府中市社協より表彰 NPO法人リョービ社会貢献基金設立 静岡県知事から河川・道路の清掃で褒賞を受ける(静岡工場) NPO法人設立記念事業(11地域社会福祉協議会へ物品寄贈) 新潟県中越地震の被災地や被災者へ義援金とリョービ商品を寄贈(NPO法人)

年	月	リョービ環境保全委員会の活動
	2005 7 9	「チーム・マイナス6%」へ参加 物品寄贈事業(11地域)以後継続(NPO法人)
	2006 3 4 9	ボランティア6団体へ活動資金の助成、以後継続(NPO法人) 府中ロータリークラブより表彰(NPO法人) 府中市社協より表彰(NPO法人)
	2007 6 7 9 10	「ブラックイルミネーション2007」へ参加、以後継続 新潟県中越地震の被災地や被災者へ義援金を寄贈(NPO法人) 府中市社協より表彰(NPO法人) 印刷機「RYOBI 750シリーズ」が「環境対応規格「BG環境テスト認証」を取得
2005 ▽ 2014	2008 3 10	東京軽合金製作所「エコアップ認定事業所」として認証 府中市社協より表彰(NPO法人)
	2009 7 10	「セタライトダウン」へ参加、以降継続 第20回芦田川クリーン作戦(府中地区) 府中市社協より表彰(NPO法人)
	2010 7	「チャレンジ25」へ参加
	2011 3	東北地方太平洋沖地震の被災地や被災者へ義援金と救援物資を寄贈
	2012 10	府中市社協より表彰(NPO法人)
	2013 11	創立70周年記念行事(クリーン作戦、公園清掃)
	2014 11	広島県社協より表彰(NPO法人)
	2015 12	名古屋市天白区社協より表彰(NPO法人)
	2016 1	尾道市社協より表彰(NPO法人)

マテリアルバランス

生産工程における廃棄部分のほとんどを再利用するなど、投入と排出のバランスを徹底管理。

リョービグループでは、必要なエネルギーや資源の投入量(INPUT)と、事業活動から発生するCO₂や廃棄物の排出量(OUTPUT)を把握し、バランスを考えながら、より効果的な環境負荷低減への取り組み、環境に配慮した事業活動を推進していきたいと考えています。また、ダイカスト製品の原材料であるアルミニウムはリサイクル性に優れており、生産工程において発生する廃棄部分のほとんどを社内で再溶解し、再利用しています。



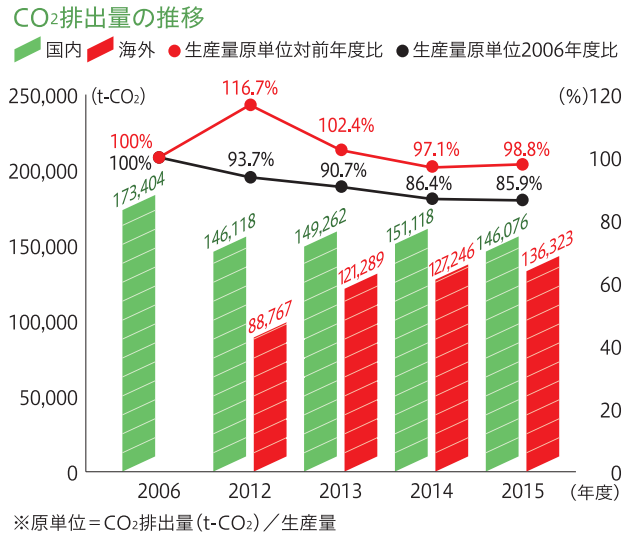
環境に配慮した製造を推進。各分野で成果をあげています

CO₂削減への取り組み

さまざまな省エネ施策の実施により、①生産量原単位を2006年度比 85.9% (14.1%削減) で目標達成。
②生産量原単位を前年度比 98.8% (1.2%削減) で目標達成。

「2016年3月までにCO₂排出量生産量原単位を2006年度比で、12%削減する」および「CO₂排出量生産量原単位を対前年度比1%削減する」の2つの目標を掲げ取り組みました。
最終年度の2015年度のCO₂排出量生産量原単位は、2006年度比85.9% (14.1%の削減)、対前年度比98.8% (1.2%の削減) となり、いずれの目標も達成しました。
加工機械の運用・設備改善、コンプレッサーの効率的な利用およびエアー漏れ改善、照明のLED化、アルミ溶解炉の更新、鑄造機保持炉の放熱防止などさまざまな省エネ施策を実施することで原単位の改善に努めました。

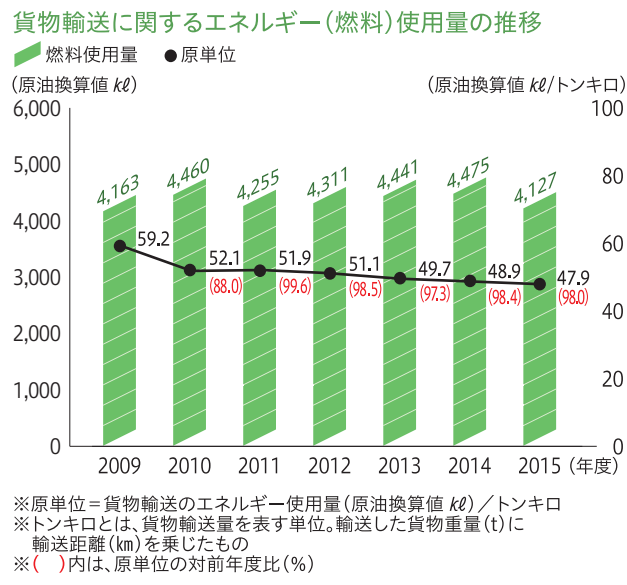
2016年度からは、次の2つの目標を掲げて取り組んでいます。
・2021年3月までにCO₂排出量生産高原単位を2013年度比で、13%削減する。
・CO₂排出量生産高原単位を対前年度比1%削減する。



物流関連への取り組み

効率的な物流システムの構築を推進。
原単位を前年度比98.0% (2.0%削減)。

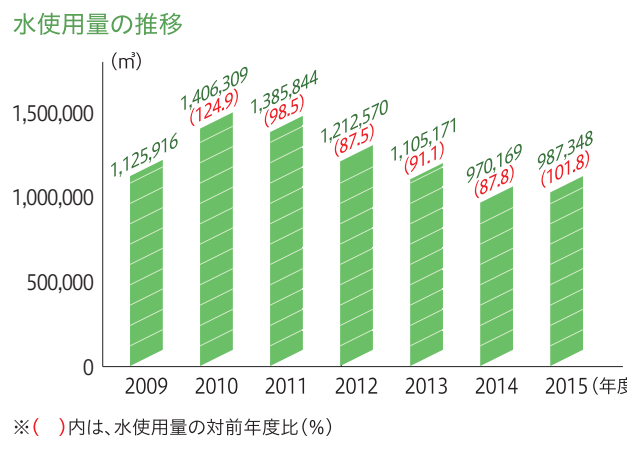
エネルギー使用の合理化を推進することを目的とし、貨物輸送に関するエネルギー（燃料）の使用量の削減、効率的な物流システムの構築を進めています。
2015年度の貨物輸送に関するエネルギーの使用量は、原油換算値で4,127kℓとなり、2014年度より348kℓ減少しました。また、1tの貨物を1km運搬するのに要する原油量（原単位）も、2.0%減少しました。
2016年度も、荷姿を縮小し、一度に運搬する個数を増やしたり、生産をお得意先に近い工場へ移管することで輸送距離を短くすることによる輸送効率化などに取り組んでいきます。



水資源の効率利用への取り組み

水使用量は、前年度比101.8% (1.8%増加)。

2015年度の水使用量は約987千m³となり、対前年度比で1.8%増加となりました。
今後は、工業用水の循環利用や流量計確認による漏水への早期処置対応など、使用量を適切に管理することで使用量の削減に取り組んでいきます。

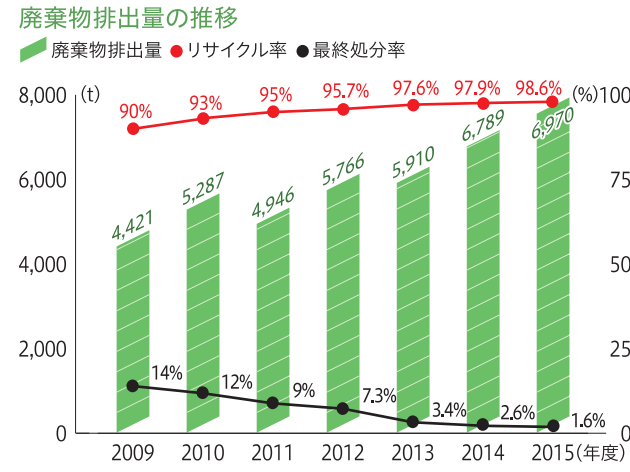
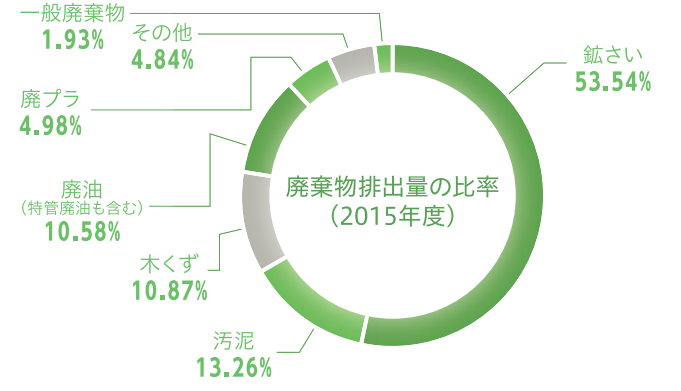


廃棄物への取り組み

埋め立て処理が必要な廃棄物の排出量を削減。
リサイクル率98.6%、最終処分率1.6%で目標達成。

2015年度の廃棄物排出量は6,970tで、対前年度比で約2.6%増加しました。廃棄物の分別徹底により埋め立て処理される廃棄物の排出量を減らすことで、リサイクル率は98.6%、最終処分率は1.6%となりました。

2016年度からは、次の目標を掲げて取り組んでいます。
・2021年3月までにリサイクル率を99%以上にする。



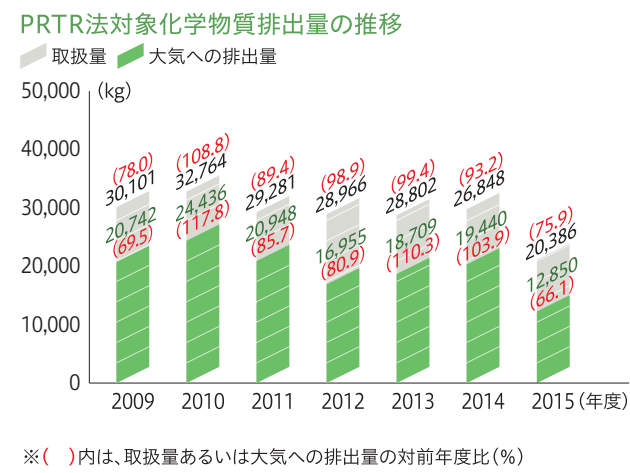
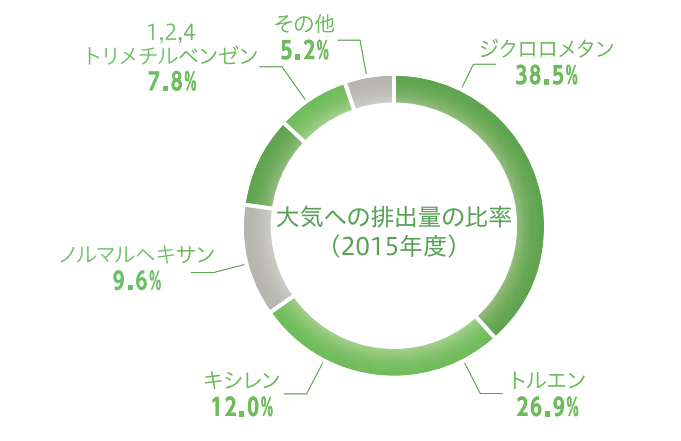
リサイクル率 = $\frac{C \text{ 再資源化量}}{A \text{ 廃棄物排出量} + B \text{ 有価物量}}$
最終処分率 = $\frac{D \text{ 最終処分量}}{A \text{ 廃棄物排出量}}$

A 廃棄物排出量	B 有価物量
非リサイクル量 (中間処理)	C 再資源化量 (リサイクルされた廃棄物 + 有価物)
D 最終処分量	

有害物質への取り組み

有害物質の大気中への排出量は、対前年度比66.1% (33.9%削減)。

2015年度のP R T R法対象化学物質の取扱量は、約20t、大気への排出量は約13tとなりました。
取扱量は対前年度比75.9% (24.1%削減)、大気への排出量は対前年度比66.1% (33.9%削減) となりました。



PCB (ポリ塩化ビフェニル) の管理

法規制を順守し、PCB廃棄物を適切に保管、管理。

リョービグループで保管しているPCB廃棄物 (高圧コンデンサ、蛍光灯安定器など) 2016年6月現在の保管数は1台です。
外部への流出防止など、法規制を順守し、適切に保管、管理しています。

リョービ環境保全委員会を中心に、社員が積極的に地域と関わっています

【リョービ環境保全委員会 活動TOPICS】

TOPICS.1

第26回 芦田川クリーン作戦、事業所周辺の清掃活動を実施



本社周辺河川(芦田川)の清掃



東京支社周辺の清掃

社員とその家族約660人が参加！

本社近辺の事業所では、全社員に呼びかけて毎年1回、本社近辺を流れる芦田川の土手、河川敷の空き缶やゴミの清掃を行っています。この活動は、1990年に「リョービ環境保全委員会」が発足して以来継続しており、2015年10月で26回目となりました。年々、ゴミの量は減ってきています。また、東京支社、大阪支店などほかの事業所でも、事業所周辺の清掃活動などを定期的に行っています。



大阪支店周辺の清掃

TOPICS.2

社員によるアルミ缶回収運動

年間26万個、 累計1,514万個を回収！

1991年から、本社付近の事業所ではアルミ缶回収運動を実施しています。これは、社員が自宅などから持ち寄ったアルミ缶をアルミ再生業者に販売し、その収益金をNPO法人リョービ社会貢献基金に寄付する運動です。2015年度に回収したアルミ缶の個数は約26万個、総重量は約4tでした。1991年からの累計個数は約1,514万個、総重量は約251tになりました。



本社敷地内に、アルミ缶回収ボックスを設置

【NPO法人リョービ社会貢献基金 活動TOPICS】

TOPICS.1

日本各地へ、物品寄贈・活動資金助成を実施



広島県三次市
社会福祉協議会へ寄贈



広島県府中市の
4団体に寄贈



兵庫県朝来市
社会福祉協議会へ寄贈



埼玉県行田市の
2グループに助成



静岡県静岡市の
4グループに助成

10地域16団体に車イスなどを寄贈

社会貢献基金の一環として1991年から毎年、事業所所在地の社会福祉協議会や社会福祉施設などに対し、物品寄贈を行っています。2015年度は、10地域16団体に寄贈を行いました。

4地域17団体に活動資金を助成

ボランティア活動グループ・団体に対して、2006年から活動資金の助成を行っています。2015年度は、4地域17団体に助成を行いました。

TOPICS.2

地域のイベントなどに ボランティアを派遣



福祉バザー&ふれあい広場でのボランティア活動の様子

社員有志が地域でボランティア

社員有志がボランティア団体「NPOリョービ」を組織し、広島県府中市のボランティア連絡協議会の会員として登録し、ボランティア活動に参加しています。2015年度もボランティアフェスティバルや福祉バザー&ふれあい広場などに参加しました。

実践者VOICE

NPOリョービがなければ、
ボランティアに踏み出せなかったかも。
貴重な機会をいただきました。

リョービ株式会社
情報システム部
清水 明美

元々ボランティアに興味があったので、入社当時からNPOリョービに参加しています。主な活動としては、老人ホームのお祭りなど地域イベントのお手伝いが多いですね。日常の業務では出会えない地域の人と関われることに魅力を感じています。最近一番うれしかったのは、屋台で食べ物の販売を手伝っている時、「このコロッケはおいしい」というお声をいただいたこと。まるで自分がつくったみたいになれたのですが、そんな風に地域の方が喜んでくださることが、私のモチベーションになっています。



NPO法人リョービ社会貢献基金とは

当社が2003年(平成15年)12月に創立60周年を迎えたのを機に、社会貢献活動の規模と内容の充実・拡大をはかるため、「特定非営利活動法人(NPO法人)リョービ社会貢献基金」を2004年(平成16年)7月1日に設立しました。主な活動としては、社会福祉協議会等への物品の寄贈、ボランティアグループへの活動資金助成やボランティアの派遣などを行っています。

リョービの社会貢献活動の詳細は
ホームページでご確認ください。

<http://www.ryobi-group.co.jp/corp/csr/social.html>

2015年度スローガン

「“ご安全に”で高める安全意識 みんなで進める心とからだの健康づくり」のもと、安全で健康な職場づくりに取り組みました

「安全」を高めるために —— 「安全文化」の定着をめざし、継続的な取り組みを行っています。——

基本方針

組織と個人が安全を最優先する全員参加の安全文化を定着させるため、次の基本方針に基づき活動を行っています。

- ①一人ひとりが安全の基本ルールを正しく理解して遵守する。
- ②危ないと気づく感性を高め、不安全状態、不安全行動の根絶を図る。
- ③不安全な行動などを相互に指摘し合える職場をつくる。
- ④心とからだの健康づくりを推進する。



「ご安全に」挨拶運動

重点的取り組み

危険に対する感性を磨くとともに、常に安全を意識して行動することで、災害の可能性を予測する先取り安全が重要であると考え、次のような活動を継続的に展開しています。

- 「ご安全に」挨拶の推進
- 危険予知能力の向上
- ヒヤリ・ハットの推進
- 相互指摘活動の推進
- パトロール者のスキルの向上
- 疑似体験教育の実施
- リスクアセスメントの推進
- 安全ルールの遵守



パトロール者スキルアップ研修会

社員一人ひとりが、毎日、安全を意識して行動することを定着、維持、推進するために、「ご安全に」挨拶運動のキャンペーンを、4回実施しました。また、相互に安全意識を高めるために、不安全な行動などをお互い注意し合う活動を始めました。リスクアセスメント推進においては、従来から行っている地震、火災、爆発に対するリスクアセスメントに続き、2016年6月から法令で義務化される、化学物質のリスクアセスメント実施に向けて準備を進めました。さらに、一人ひとりの安全意識を高め、危ないと気づく感性を養うために不安全状態、不安全行動を見つけ出すパトロール者のスキルの向上やKYT(1人KY)の研修会を開催しました。

「健康」を守るために —— 健診後の対応強化およびメンタルヘルスケアの推進を行いました。——

健康診断有所見者へのアプローチ

健康診断における有所見者の判定基準を明確にし、要治療や要精密検査となった社員に健康管理室から受診を勧奨しています。なかなか受診しない社員には産業医による面談または看護師による健康相談を実施し、有所見者を受診や治療へつなげるようにしています。



管理職メンタルヘルス研修

メンタルヘルスケア推進の取り組み

2013年度より年1回のストレスチェックを実施してきましたが、法改正にともない、2016年度からは労働安全衛生法に基づくストレスチェックを実施します。社員が安心してストレスチェックを受け、医師面接の申出やカウンセラーへの相談がしやすい環境づくりを進めています。また、職場のストレスチェックの結果をもとに実施している管理職研修や、新任監督者研修、一般職を対象としたメンタルヘルスセミナーも継続して実施していきます。

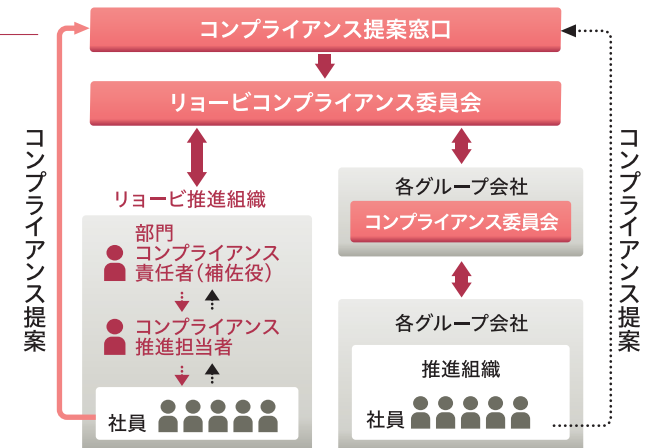


メンタルヘルスセミナー

さまざまなステークホルダーへの責任を果たすため、コンプライアンスとコミュニケーションへの取り組みを継続して推進しています

コンプライアンス(法令・倫理等の遵守)の推進体制

企業が広く社会から信頼されるためには、法令や倫理に反する行動をしない、常に正しい行動がとれる体制を確立することが重要です。そのためにリョービグループでは、コンプライアンスを重要な経営課題の一つとして取り組んでいます。「リョービコンプライアンス委員会」を中心とする推進体制の確立、コンプライアンス提案窓口の設置などによりコンプライアンスの推進をはかっています。



コミュニケーションの推進

ホームページでの情報公開

リョービおよび国内グループ会社では、ホームページで情報を公開しています。最新の情報はホームページをご覧ください。

- リョービ株式会社 <http://www.ryobi-group.co.jp/>
- リョービミラサカ株式会社 <http://www.ryobi-group.co.jp/r-mira/>
- リョービミツギ株式会社 <http://www.ryobi-group.co.jp/r-mitsu/>
- 株式会社東京軽合金製作所 <http://www.ryobi-group.co.jp/tk/>
- リョービ販売株式会社 <http://www.ryobi-group.co.jp/r-sales/>
- リョービMHIグラフィックテクノロジー株式会社 <http://www.ryobi-group.co.jp/graphic/>
- リョービ開発株式会社 <http://www.shobaracc.com/>



地域との公害防止協定に基づく協議会

各事業所においては、必要に応じて事業所所在地の行政、地域社会などと公害防止協定を締結し、協定に基づき定期的に工場排水の水質検査結果、ばい煙測定結果、騒音測定結果などを報告するなど、協議の場を設けています。各事業所とも地域社会などの良好な関係が維持されています。

外部からの情報公開要求、苦情等への対応

2015年度は外部からの情報公開要求や苦情などは、ありませんでした。



この報告書に関するお問い合わせは

リョービ株式会社 人事・総務部 安全環境課 〒726-8628 広島県府中市目崎町762
TEL/0847-41-1309 FAX/0847-43-6111 e-mail/kankyo@ryobi-group.co.jp

RYOBI リョービ株式会社

本 社 〒726-8628 広島県府中市目崎町762
Tel.(0847)-41-1111
東京支社 〒114-8518 東京都北区豊島5-2-8
Tel.(03)-3927-5541

<http://www.ryobi-group.co.jp/>



ISO 14001認証取得

無断複製・転載等を禁止します。

UD FONT 見やすいユニバーサルデザイン
フォントを採用しています。